

塔思干セミバラチンスクは新疆に入るの二大關門にして、其間を連絡する大路は新疆の省境と始んど相駢行し、幾多の支道を分岐して新疆と交通するを得べく大勢上、露國は至便の位置を占めたり。

進んで省内に於ける露國の交通機關の設備を観るに、寧遠城(固爾札)より西方國境に通ずる一條の電信線を有し、同城内に自國の電信局、郵信局を設け、殊に其電信線路には、遞傳哨を配置し在り。塔爾巴哈臺にも亦電信局の設け有りて、其線は國境に及べり。獨り烏魯木齊には未だ電信局を有せざるも、塔爾巴哈臺及伊犁の二地へは毎週一回四輪馬車を往復せしめて、相互の通信に供す。喀什噶爾にも亦郵便局を置きて、騎馬の遞送夫を國境まで往還せしむ。

第四節 清國の對露施設

新疆に於ける露國の勢力が、着々地歩を占むるに反し、其主權を握れる清國の施設は、露國に對し三舍を避くるの形勢に在り。鐵道は僅に河南に通ずるに過ぎず、西安以西、蘭州、肅州等を経て新疆に到る所謂伊犁鐵道の布設は、尙ほ前途遼遠なり。